

ユニシス道工場完成

輪厚工業団地 4月から本格稼働



企業関係者らに工場内を案内するユニシスの斎藤社長（中央）

【北広島】麻酔用など特殊針製造国内最大手のユニシス（東京）は22日、北広島輪厚工業団地内に建設した北海道工場で竣工式を行い、道内外の企業関係者ら約170人が工場完成を祝った。4月から本格稼働し、無痛分娩などで使う「ペインシル型麻酔針」を年間100万本生産する予定。

工場は鉄骨3階建、延べ床面積約900平方メートル。従業員はパートも含め17人。夏ごろからは針の組み立て作業なども行い、最終的に50人程度まで増やす見込み。

竣工式では斎藤英也社長が「北の大地から世界へと羽ばたけという北海道工場のキャッチフレーズに負けないよう工場を育てたい」とあいさつ。同社は今後5年以内の増築も視野に入れており、上野正三市長は「で

きるだけ早い増築を願っている」と述べた。式には高橋はるみ知事も出席した。同社は埼玉県に製造拠点があるが、震災などのリスク分散を目的に北海道進出

を検討。地震、津波などの自然災害が発生しにくいことや、空港や港湾へのアクセスの良さ、札幌に近く労働力を確保しやすいことなどから北広島を選んだ。

（尾張めぐみ）